

ひびき

教育目標「なかよく かしこく たくましく」

一人一人が大切にされる学校・風通しのよい学校
多治見市立共栄小学校 R7.1.31

「失敗を怖れず挑戦する共栄の子」をめざして！

—これからの時代を生きるためにTry&Errorを大切に—

共栄小学校長 加藤 隆史

11月から朝活動の「いきいき運動」ではエイトジャンプが始まりました。学級ごとに3分間で跳べた回数が職員室前にも掲示されています。その締めくくりとして1月29日にはエイトジャンプ大会がありました。「ドンマイ！」「まだ跳べるよ！」学級の仲間に向かって声をかけ合いながら、一人一人が真剣な表情で縄に向かっていく姿は、まさに仲間とともに新記録に向けて「挑戦する」姿でした。さらに縄跳びでいえば、短縄でも体育の時間を使って、一人一人が級を上げるために新しい技に取り組んでいます。中には休み時間もなわとびカードをもって運動場に行き、何度も失敗をしながら新たな技ができるように練習する姿が多くみられます。こうした姿も、自分のレベルアップに向けて「挑戦する姿」だといえます。

今の子どもたちが一番働き盛りになるのは2040年ごろ。このころはAIと人間の能力が拮抗し、様々な変化が起こる時期だといわれています。その時、どんな世の中になっているかはまだ想像もできません。しかし、どんな時代になっても生きていく力を身に付けていく必要があります。その必要な力が「失敗を怖れず挑戦する力」であると考えます。そのために大人は、ただ「挑戦することの大切さ」を話してだけでなく、「Try&Error」があたり前のようにできるように話していくことが大切です。今の子どもたち（大人もそうですが）は「やるからには成功しなければならない」「成功できる可能性が低いならやらない方がいい」と考える子が多い気がします。しかし、挑戦（Try）してみても、失敗（Error）を経験することで、「改善してみよう」「何がいけなかったのか」と考えるようになります。これが「成長」であり、このサイクルの積み重ねこそが「これからの世の中を生きていく力」になっていくものと考えます。

令和5年～令和9年度の第3次多治見市教育基本計画には「挑戦する多治見の子」という方針があります。本校においても、来年度は「挑戦」を一つのキーワードにしていきたいと考えているところです。冒頭で触れた縄跳びだけでなく、様々な子どもたちの挑戦を価値づけ、広げたいです。そして、その基盤となる「失敗しても大丈夫」「失敗しても仲間が支えてくれる」そんな安心できる人間関係づくりを大切にしていきます。

